

私は今回、個別計画実習の一環でマレーシアの International Medical University (IMU) において、4 週間の Family Medicine の実習させていただきました。

<マレーシアの教育制度と IMU について>

IMU は 1992 年に設立された、マレーシア初の医療系私立大学です。この大学は英語での授業を基本とし、海外の大学との結びつきが強いのが特徴です。かつてイギリス領だったこともあり、イギリスの教育をベースとし半年ごとに区切りのある Semester 制度を取っています (5 年で 10 semesters)。今回実習した医学部のキャンパスは首都から 1 時間ほど車で南下したところにある Negeri Sembilan 州の Seremban という静かな街にありました。Family medicine, Internal medicine, Surgery は Semester 6 (日本でいう 3 年生後期) の必須診療科であり、3 つの系列クリニックで実践的な医療を学びました。



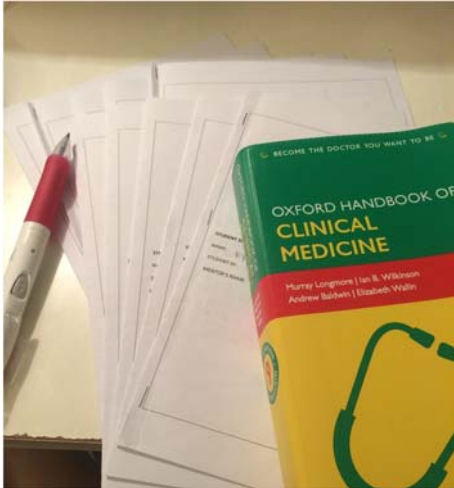
Klinik Kesihatan Seremban の待合室



糖尿病・高血圧外来

<1 週目 (4/4/16~8/4/16) >

週に 3~4 回は Medical Observation / Attachment (以下 MO/A) と呼ばれる臨床実習があり、これは実際クリニックを訪れた外来患者さんが待合室で順番を待っている間に問診し、病歴から暫定診断をつける練習をするものです。その後一緒に診察室に入り、医師とともに身体診察をさせてもらい、鑑別診断を挙げ、検査や診断、そして処方や患者へのアドバイスなども考えます。診察後は患者が薬局でどういった薬をもらうのか、また薬の飲み方の指導なども付属の薬局まで行って学びます。現地の学生はとても積極的で、患者さんの背景に合わせてマレー語や英語、中国語 (Mandarin)、タミル語などを巧みに操り、徹底して病歴を聞き出そうとする姿勢がとても印象的でした。また、日本とは異なった疫学にも驚きました。初日に最初に見た 20 代男性の患者さんは、2 日前からの発熱を主訴として来院しました。随伴症状や病歴から担当医師に鑑別診断を聞かれ、私はウイルス感染を疑ったこと伝えましたが、マレーシアではこの時期のウイルス感染といえば真っ先にデング熱を鑑別に挙げ、すぐに血液検査で抗体などをチェックしなければならないと教わりました。またマレーシアの伝統的な食事は砂糖や塩、スパイスをふんだんに使ったものが多く、また日中は 30℃を超えるのが普通なので運動をすることはほとんどないため、糖尿病・高血圧大国であるようです。



課題の Clerking Sheets



同じグループの学生と Dr. Rabin

<2 週目 (11/4/16～15/4/16) >

2 週目の水曜日は大学の新しいプロジェクト“IMU Care Project in orang asli settlement in Jeram Kedah”に参加させていただきました。これは orang asli という原住民族の村で、Fam med 専門ドクター2人の指導の下、学生が健康診断を行うプロジェクトでした。現地の方は主にマレー語を話すため、私は他の学生について問診や診察の書記、そして採血のお手伝いをしました。住民の方々はゴムやバナナの栽培・出荷を生業としており、生活習慣病の患者が少なかったように思います。その代わりに鉄欠乏性貧血による舌炎など、中心街における臨床実習では見られなかったような症例をたくさん見ることができました。

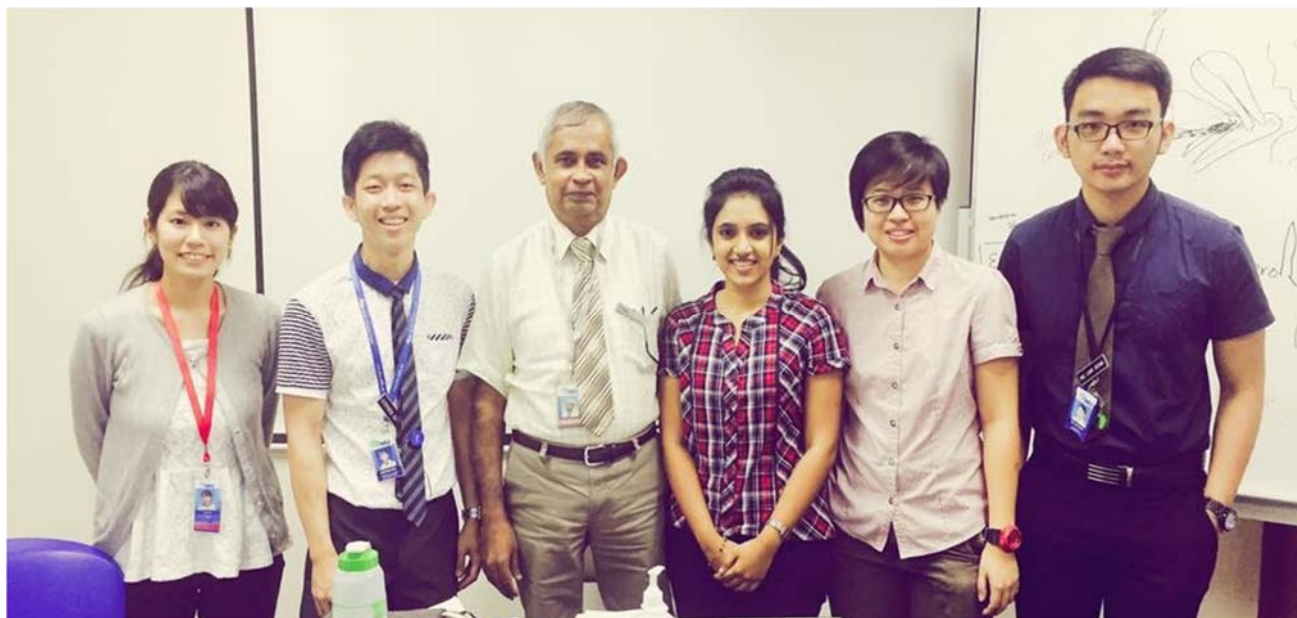


IMU Care Project にて

<3 週目 (18/4/16～22/4/16) >

この週の月曜日に、所属するグループの試験 (End of posting examination; EOP exam) がありました。試験内容は胸痛、発熱、咳、関節痛といった主訴をテーマに模擬患者への問診から治療方針の決定を行う、日本でいう Advanced OSCE と似たような内容でした。今回の症例は喘息で、学生は 30 分間という制限時間の中で、徹底した問診と的を絞った診察、そして教授の前でショートサマリーを述べた後

に診断とその治療戦略とフォローアップを患者に説明するのですが、どの学生もすごくよく出来ていて、特に患者さんに対して英語でどのように説明あるいは問診するのがわかりやすいか、そして医学的にどういった用語で解釈するのかという点でとても勉強になりました。その後木曜日には急遽私も EOP exam を受けることになり、私の症例は糖尿病のフォローアップで来院した患者さんでした。患者さんとのお話の中で意思疎通が図れないところもありましたが、なんとか試験をパスすることができました。



Mentor の Dr. Anthony と同じグループの学生

<4 週目 (25/4/16～29/4/16) >

4 週目はクリニックの患者さんを病院に送った後どう管理するのかを学ぶために Int med の病棟実習に参加させてもらうことになりました。私の所属したグループは同じ州内にある Port Dickson というビーチリゾートで有名な町にある、Port Dickson 病院での実習となりました。地域の中核病院ということで、Stroke や Acute Coronary Syndrome、Chronic kidney disease、その他 Dengue fever の患者さんが多く入院されていました。この週では CKD の患者さんのマネージメントや、神経診察のポイント、そして房室ブロックと洞不全症候群の患者さんの心電図の解釈などを学びました。

<最後に>

今回の留学では IMU の学生から積極的に医療に関わっていく姿勢を学びました。マレーシアでは国内で医師として働く場合、特に国家試験などの制度はなく卒業後半年～1年の待機期間を経て研修医として働き始めるそうです。したがって 5 年生までには一通り自分で動けるようになることが重要で、低学年のうちから意識して臨床を学んでいました。日本では IMU の教育システムのようにドクターから直接問診・診察・プレゼンテーションのトレーニングを繰り返し見てもらう機会が少ないため、その点実習中はとても苦労しました。この経験を活かして、日本での病院実習でもより臨床に重きを置いた思考で実習をしていきたいと改めて思いました。